

ID	質問内容	ご回答
1	ヘリテージストーンに認定されて1年たちますが、石材に対する（一般の方からの）かわりや対応の変化はありましたか？	最近、NHKをはじめ多くのマスメディアでこの地域の石材・石材業の歴史が取り上げられるようになったことが、一般の方々の石材への関心が高まったことの表れと思います。実際、私が勤務するつくばジオミュージアムや石材組合事務局への石材に関する問合せも増えており、筑波山地域ジオパーク推進協議会と地元石材業者で企画・製作し、同ミュージアムで販売している遊び石セット「グラグラニット」の売れ行きも好調です。 その他、石材業に従事する若い世代の人々が、ヘリテージストーンやジオパークを深く理解しようと積極的に座学や現地視察に取り組み始めたことも、この地域内での大きな変化であり、同協議会としてもそれらの取組をしっかりと支援していきたいと考えています。
2	花こう岩は日本全国で、世界で、多くみられますが、筑波山地域の花こう岩として、ここが「いい」「すばらしい」ここが唯一のところなど、特筆すべきものがあれば教えてください。	筑波山塊の花こう岩は昔から良質の石材として有名ですが、それに加え、豊富な採掘量と採掘できる石の大きさが魅力です。例えば同じ良質の花こう岩として有名な香川県の庵治石は、採掘前の岩体に節理と呼ばれる割れ目がたくさんあるため、石材として利用可能な1㎡の石材を切り出すのも大変難しいそうです。また、日本には広く花こう岩が分布していますが、西南日本の日本海側や東北地方の太平洋側に分布する花こう岩に比べ、中央構造線沿いやその延長部（筑波山塊の花こう岩を含む）に分布する花こう岩には鉄分（磁鉄鉱）の割合が少ないと言われています。このことは、相対的には後者の地域の花こう岩は鉄分が少なく錆にくいことを示唆していると思います。
3	・岡市内に点在する様々な遺産は、1つ1つは価値のあるものと思いましたが、ジオパークという切り口によって1の線または面でつながったような気がしました。これらの遺産の活用方法の1つとして、観光客向けのツアーを組んで市内に誘客することは、ジオパーク活動の継続や遺産の維持・保全に役に立つと思われますか？	ジオパークでは、持続可能な開発の代表例としてジオツーリズムの推進が推奨されています。ジオツーリズムとは、まさに地域内の地形や地質、それらに関連する生き物や生態系そして歴史・文化・産業を面的に繋いで紹介する観光のことを指しています。従来のツーリズムでは、大人数の団体で個々の有名な観光地を巡ることが通例でしたが、最近はコロナ禍の影響もあり、小人数で何らかのテーマに沿った体験重視の観光が主体となりつつあります。ジオパーク内で定期的にジオツアーなどが実施されれば、参加した人々が自然と人々の暮らしの繋がり、その地域の自然の豊かさや希少性、そして地域ならではの特産品や地産地消の大切さに気づく機会が増えます。このような個人レベルでの意識の変容は、やがて地域の自然や文化の保全に繋がる社会変容を導いてくれると思っています。
4	笠間などの石材は数百年たってもほりつくされることはないのか？ 石材の所有権は誰にあるのか、掘っている業者はどこにお金を払っているのか？	筑波山塊の花こう岩の特筆すべき特徴に関する質問でもお答えしましたが、この地域の花こう岩はその埋蔵量が非常に多く、例えば稲田石だと、あと数百年掘っても大丈夫との話を採石業者の方から伺っています。とはいえ、花こう岩も石油や石炭などと同様に有限の天然資源です。今後も本地域の地場産業として石材業を維持・発展させていくには、次世代のニーズを試算しつつ、持続可能な利用を考慮した採掘が必要になると思います。 石材の所有権は、掘る場所が採石業者本人の土地なのか、その方とは異なる個人の土地なのか、あるいは国有林なのかによっても異なります。採石業者自身の土地でない場合には、各管理者に対して定額を支払っているということをお聞きしています。また、そもそも採石を行うには都道府県知事の許可が必要で、その許可を得るために岩石採取に係る計画書の提出（採石範囲や採石量などの細かい記載を含む）とその申請手続きに係る各種費用の支払いが必要です。さらに、当然ですが採掘や運搬に必要な人員、重機の運用や採石跡地の緑化などに係る諸経費の支払いが必要です。
5	筑波山地域や霞ヶ浦地域の地質・有形文化・無形文化遺産に関する学習会や体験活動、交流会のようなものはありますか。 それは、どのようなメディアで紹介されていますか。	筑波山地域ジオパークでは、エリア内の地質・自然・文化遺産を巡るジオツアーや保全に関連した各種イベント（例えば、茅葺き屋根に使う茅刈り、観光帆引き船の運行など）が定期的または不定期に開催されています。それらの情報は、筑波山地域ジオパーク推進協議会ホームページやSNS、ジオパークエリア構成6市（石岡、笠間、つくば、桜川、土浦、かすみがうら）や各市関連団体（観光協会など）の同媒体などで案内されています。それらをこまめにチェックして頂ければ幸いです。その他、同ジオパークの中核拠点施設「つくばジオミュージアム（つくば市）」に直接お越し頂ければ、同様の最新情報を入手することが可能です。
6	石材組合とジオパーク活動が連携できたところが素晴らしい。石切場の景観の問題をどのように協調して考えていくのが次なる課題か？	ジオパークも石材業界も、地域の石材の持続可能な活用、それらの採石・加工技術の継承を推進するという共通目標があると思います。また筑波山地域においては、筑波山塊の花こう岩がヘリテージストーンに認定された今、稼働中の採石場も石材の文化的利用の歴史を語る上で重要な文化景観と捉えることができます。そのことも考慮した上で、本来の自然景観の復元や、自然災害予防のための採石場跡地の緑化など、お互いの知恵を出し合いながら、地域らしさの保全と新たな創出に繋げて行く必要があると思います。
7	今日は杉原先生にお礼が言いたくて参加させて頂きました。石材業界現在ヘリテージストーンの名称をうまく生かしていません。これからは貴重なヘリテージストーンを広めていきます。今後とも宜しくお願い致します。ありがとうございます。心より感謝いたします。	本日はわざわざご来場・ご挨拶いただき誠にありがとうございます。講演当日もお話したように、日本の国土の多くは花こう岩でできており、それらは地域によって多様性に富んだ外観や特性を持っています。日本人は、それらを信仰の対象、石造物の材料、建築物の建材などに幅広く利用してきました。今回のヘリテージストーン認定は、これらが総合的に高く評価された結果です。中でも特に、墓石や平和のモニュメントを花こう岩石材で作るという文化は、日本人の文化的アイデンティティを維持していくうえでも大切な地域資源だと思います。今後も、従来以上に自然環境に配慮しつつ、大地の恵みの最たるものである石材を可能な限り無駄にしないことに心掛けながら、世界に誇れる「石のまち・石匠のまち」として、先人が育んできた花こう岩石材の採石・加工技術の継承に、自信を持って取り組んで頂ければ幸いです。